

Green Brave

#52 Green Brave GR Supra GT

AUTOBACS SUPER GT 2024 SERIES

Round.2

FUJI GT 3HOURS RACE

2024年5月3日(金)～4日(土) 富士スピードウェイ(静岡県小山町)

予選 10位から追い上げ 3位表彰台を獲得

予選日(金曜日)の天候は晴。95分間の公式練習は9時から行われ、野中選手がコースイン。クルマとタイヤの感触を試しながら、午後に行われる予選に向けたセットアップを進めていきます。約30分走行後、吉田選手に交代。吉田選手はピットインを繰り返しながら50分近く走行し、残り約10分で野中選手に交代。野中選手が専有走行を担当し、公式練習は終了となりました。ベストタイムは野中選手が14周目にマークした1分36秒578で、順位は4位。FIA-GT3勢の直線の速さが際立っているものの、両ドライバーのコメントはポジティブ。決勝用のセットアップにも確かな手ごたえを感じています。

GT300のQ1は14時25分からB組、A組の順に行われ、Green BraveはB組に出場。ドライバーの野中選手は前走車との間隔を大きく開けてコースイン。5周目に1分37秒047のベストタイムをマークしますが、順位は7位。Q2Gr.1(上位組)進出を決めたものの、A組の多くがタイムを伸ばしており、路面コンディションが不利に働いた格好です。Q2Gr.1は15時36分から行われ、吉田選手が予選開始の合図とともにコースイン。4周目に1分36秒502の好タイムをマークし、6位で予選を終えます。合算タイムにより、予選の正式結果は10位。実力通りのグリッドではないものの、チームは決勝のロングランに自信を持っており、明日の本番が楽しみな状況です。

決勝日(土曜日)の天候は晴。気温は前日以上に高く、初夏のような陽気です。チームはスタートドライバーに野中選手を起用。3時間の決勝中、2回の給油を伴うピットイン義務があるため、タイヤをいたわりながら、適切なタイミングでピットインを行う方針です。レース序盤、野中選手は#31 LC500hと#87 ウラカンに挟まれながら11位を走行。直線が速い#87 ウラカンに何度も仕掛けられますが、冷静にディフェンスし、周回を重ねます。15周目には#45 フェラーリをパスして10位へ。17周目にはピットインを行うライバルも現れますが、タイヤ交換を1回におさえたいチームは、走行継続を指示。野中選手のペースは良く、上位陣のピットインにより、順調にポジションを上げていきます。スタートから約1時間が経過した36周目に2位へ。野中選手は43周を走り切り、ピットイン。吉田選手に交代し、タイヤ交換と給油を行い、ピットアウトします。

コースに復帰した吉田選手の順位は7位。野中選手の良好なペースに着目したチームは、ハーフタンクの給油にとどめており、軽さとフレッシュタイヤの相乗効果で、ベストラップを更新しながら追い上げを開始します。46周目に6位に上がると、55周目には#87 ウラカンをパスして5位へ。残り1時間少々となった64周目に2回目のピットインを行い、チェッカーまで走り切れる燃料を給油します。吉田選手はタイヤ無交換のままピットアウト。10位でコースに復帰し、レースは終盤戦に突入します。ピットイン義務を残しているクルマが上位にいるため、吉田選手は順調にポジションアップ。76周目に4位、79周目に3位、84周目に2位と、表彰台圏内に進出します。吉田選手は97周目、後方から追いついてきた#56 GT-Rと激しいバトルの末、3位に後退しますが、その後はポジションを守り切りチェッカー。3位表彰台を獲得し、ランキング3位につけています。

決勝結果(GT300クラス)

#52 Green Brave GR Supra GT
(吉田広樹/野中誠太)

決勝: 3位(108周、3時間02分37秒410)

予選: 10位 合算タイム: 3分13秒549

(Q1B組: 7位、Q2Gr.1: 6位)



DRIVERS VOICE



吉田広樹 選手

(予選後) ぼくにとっては今回が初めて中古タイヤでのアタックとなりました。朝の公式練習では、コンディションができるまでちょっとわからなかったのですが、その割にはうまく走れたかなと思います。予選アタックの課題はあると思うのですが、前回の岡山と比較して、ロングランはそんなに悪くないと感じています。もっと前からスタートできる方がもちろん良いのですが、3時間の長いレースでピットインも2回あり、タイヤメーカー毎に戦略も違うと思いますので、10番手スタートでもまだまだ戦えると思います。

(決勝後) ちょっと短めなスティントとフルスティント、2つのスティントを走ったので疲れました。もともと2パターンの作戦を考えていて、誠太のペースとまわりのペースを見ながら、どちらか選ぶ作戦でした。長いスティントになるのはわかっていたのですが、ぼくらは追いかける立場で、難しかったのですが、後からピットに入る人たちの前に出なければならなかったので、ちょっとタイヤを使っても順位を上げたいという気持ちでプッシュしていました。大量得点がなくても、絶対取りこぼさないのがぼくらの強みなので、レース内容は悪くないと思います。



野中誠太 選手

(予選後) GTA GT300 勢のトップをとれるように頑張っていたのですが、路面温度がどんどん上がってきて、そこに対して合わせる事ができませんでした。バランスには満足していたので、コースの相性とコンディションの差だと思います。練習走行の時に決勝に向けたセット変更を行ったのですが、予選でも問題なく走れていました。改善した部分が良い方向に行くと思いますので、明日が本当に楽しみな状況です。ぼくらはロングランの部分で優位だと思いますので、ピット作業で時間を稼いで、最終的に順位がポンと上がっているのがいいと思います。

(決勝後) 10番手からのスタートとなり、当初から苦しい展開を予想していたのですが、できる限りの良い結果を出せたと思います。FIA-GT3 勢に対して、ストレートスピードは厳しかったので、バトル的に厳しい部分がありましたが、頑張って抜き返して、単独になった時はいいペースで走れたので、バトル面でも今回は強く戦えました。ピットインのタイミングもあそこしかなかったです。チームのみなさんが素晴らしいクルマを作ってくれたので、終始良いバランスで走ることができ、自信を持って走ることができました。今後のレースでも上位を狙えると思いますので、チャンピオンを目指して頑張りたいと思います。



次戦予告

6月1日~2日
鈴鹿サーキット
(三重県鈴鹿市)

GT300 クラス決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	JLOC ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3)	108 周
2位	リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	108 周
3位	Green Brave GR Supra GT (トヨタ GR Supra)	108 周
4位	グッドスマイル初音ミク AMG (メルセデス AMG GT3)	108 周
5位	apr LC500h GT (レクサス LC500h)	107 周
6位	muta Racing GR86 GT (トヨタ GR86)	107 周

天候：晴 路面：ドライ ※トップ6まで(出走27台)

GT300 クラス チームランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	2	muta Racing INGING	31
2位	88	JLOC	29
3位	52	埼玉 Green Brave	25
4位	56	KONDO Racing	21
5位	65	K2 R&D LEON RACING	19
6位	31	apr	18

トップ6まで

PARTNERS



Driving Mobile Media Innovation

アルパインマーケティング株式会社



株式会社アルシエ



株式会社 FM NACK5



株式会社小倉クラッチ



株式会社カロッツェリアジャパン



埼玉群スリーボンド株式会社



株式会社三和



株式会社サーフティライフ



大和ラチエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



BP カストロール株式会社



株式会社プロモーション



株式会社プロモーション



Mechanix Wear LLC



株式会社 REIZ